

家庭から家庭へ

毎日の祈りと瞑想（ディボーション）のための読み物



世界総会 家庭部

1 幸せな家庭の秘訣

「イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた」(ヨハネ 2:2)

全ての人の願いは、強い絆で結ばれた幸せな家庭があることです。多くの人は、困難にも負けない結婚関係を切望しています。理想の相手を選び、人生の特別な瞬間を共にしたいと願います。計画通りにすべてのことが運ぶようにと思っています。しかし、多くの夫婦は、自分たちの築いた家庭が、崩れ去っていくのを目の当たりにします。理想と思い描いていたことが、現実には悪夢となり、攻撃しあうことによって癒えることのない傷がお互いの心につけられます。

ガリラヤのカナでの婚礼から、私たちは幸せな結婚生活の 3 つの秘訣を学ぶことができます。最初の秘訣は、2 節にあります。「イエスも…招かれていた」。多くのカップルは、結婚式の詳細について頭を悩ますばかりで、もっとも大切なこと—イエス様を新しい家庭にお招きするのを忘れてしまいます。この地上での最上の関係は、神様と夫と妻の 3 人で築かれます。私たちの家庭にイエス様がおられるからといって、問題が起こらないわけではありません。けれども、イエス様が共にいてくださる限り、家庭を守り続ける力をいただくことができるのです。

5 節に、2 つ目の秘訣を見つけることができます。「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」。もし私たちがイエス様の御心に従おうとするなら、自分の満足のために行動することはなくなり、イエス様が喜んでくださることをしたいと望むようになります。「主は、私に何を期待しておられるのだろうか?」と迷うとき、答えはいつも聖書の中に見つけることができます。夫に対して、聖書は次のように教えています。「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい」(エフェソ 5:25)。妻には、次のように語っています。「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい」(5:22)。女性は、夫を愛し、親切にし、思いやりを持つようにすすめられています。親たちには、イエス様がこのように願っておられます。「父親たち、子どもを怒らせてはなりません」(エフェソ 6:4)。子どもたちには次のように教えておられます。「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです」(エフェソ 6:1)

3 つ目の秘訣は、キリストとの生きた関係を持ち続けることです。ヨハネ 2 章 6、7 節に、「そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが『水がめに水をいっぱい入れなさい』と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした」。家庭を清める儀式のために、通常は、水がめに常に水が入っていました。水がめがからだったのは、家庭で信仰が培われていなかったことを示しています。空の水がめは、信仰のない家庭を表しています。

不幸なことに、クリスチャンホームとは名ばかりで、これらの三つの秘訣が実行されていない家庭が多くあります。その悲しい結末は、家族間の争い、無視された子どもたち、後悔、そして悲しみです。イエス様はあなたの家庭に招かれたいと思っておられます。あなたは、イエス様をお招きするでしょうか?

(ジュラシー・サンチアゴ・キャストロ牧師、中央ブラジル支部)

2 家族で神様の素晴らしさについて考える

「父がその子を憐れむように 主は主を畏れる人を憐れんでくださる」(詩編 103:13)

あなたの会話から、天国の朝日が差し込むようにしましょう。励ましと、希望を与える言葉をかけることによって、あなたの心からキリストの義が輝きますように。子どもたちは、心が明るくなる言葉を必要としています。自分たちが大切にされていると感じれば、子どもは幸福でしょう。語気の強い表現をやめて、優しい調子で語りましょう。聖書の教えに秘められた美しさを学び、家庭の幸福と成功のためにその教えを役立てましょう。幸せな環境で育てば、子どもたちは優しく明るい性質をもつようになります。

品性の美しさは、特別な機会にのみ輝くものではありません。心に宿るキリストの恵みは、どんな状況においても現れるのです。キリストの恵みを心に宿す人は、困難の中でさえ、品性の美しさを周りに示すようになります。家庭で、社会で、教会で、私たちはキリストのように生きていくよう召されているのです。私たちの周りは、キリストの救いを必要としている人ばかりです。神様の戒めが心に刻まれ、清い品性を持つ人の証しに触れる時、キリストの恵みによる力を知らない人も、その力を得たいと思うようになり、救いに導かれるのです。

天の法廷では、厳粛な調査が行われています。親たちは、子どもたちを神様への恐れと愛の内に訓練しなければなりません。きつい言葉や罰によってではなく、注意深く祈りながら育てなければなりません。さもなければ、サタンが子どもたちを私たちから奪っていくでしょう。

真理について知っている家族は、周りにもその真理を伝えましょう。主の民は特別な働きへの備えをします。子どもも、高齢者も、救霊の働きのために自分の役目が与えられています。キリストは、若いころから、周りのすべての人々を神様へと導く影響力を持っておられました。現代の青年も、神様より、人々を導く力が与えられています。

親たちは、神様のご品性を子どもたちに示す責任と名誉を与えられたことを、もっと大切に考えなければなりません。日常生活であらわされる親の品性を通して、子どもたちは神様の言葉の意味を理解します。

「父がその子を憐れむように 主は主を畏れる人を憐れんでくださる」(詩編 103:13)

「母がその子を慰めるように わたしはあなたたちを慰める」(イザヤ 66:13)

(エレン・G・ホワイト 『父なる神の愛』英文p.298、299)

3 最初の家庭であるエデン

「主なる神は…女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られ(た。)…こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、2人は一体となる」(創世記 2:21~24)

神は、最初の結婚をとり結ばれた。だから、結婚式の制定者は、宇宙の創造主である。「結婚を重んずべきである」(ヘブル 13:4)。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の1つであった。また、それは、墮落後、アダムが楽園の門から持って出た2つの制度の中の1つである。婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。それは、人間の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、道徳的性質を高める。……

われわれの祖先の家庭は、その子供たちが地に住むためにひろがっていくときの、彼らの家庭の模範とならなければならなかった。神ご自身の手で飾られたその家庭は、豪華な宮殿ではなかった。……神は、アダムを園の中におかれた。……清い家族の環境は、すべての時代に教訓を教えている。つまり、真の幸福は、誇りとぜいたくにふけることにあるのではなくて創造のみわざによって神と交わることにあるということである。もし人間が、人工的なものに目を向けず、もっと単純さをつちかうならば、彼らは、神の創造の目的に接近することであろう。誇りや野心は、あくことを知らない。しかし、真に賢明なものは、神がすべての人の手のとどくところにおかれた喜びの源泉から、実質的で高尚な楽しみを見いだすのである。

エデンに住むアダムとエバには、「それを手入れし、守るために」園の管理が任せられた。彼らの仕事は、たいくつなものでなく、楽しく爽快なものであった。神は、頭脳を活動させ、身体を強壮にし、能力を発達させるために、労働を祝福として人間にお与えになった。知的、また身体的に活動することが、アダムの清い存在の最高の楽しみの1つであった。……清い家族は、天の父の保護を受ける子供たちであるばかりでなくて、知恵に満ちた創造主から教えを受ける生徒でもあった。……造られた世界の秩序と調和は、無限の知恵と力とを彼らに語った。彼らは、自分たちを強く引きつけ、彼らの心を深い愛で満たし、新たな感謝の声をあげさせるものを常に発見するのであった。

彼らが神の律法に忠誠をつくしているかぎり、彼らの知り、理解を深め、愛する能力は、絶えず啓発されるのであった。彼らは、常に新しい知識の宝庫を手に入れ、新しい幸福の泉を発見し、神のはかり知れない不滅の愛について、ますます明瞭な観念をいただくようになるのであった(『人類のあけぼの』2章)

4 神様の声に従ったアブラハム

「アブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めや命令、掟や教えを守ったからである」(創世記26:5)

(アブラハム)自身の模範、彼の日常生活の無言の感化は、不断の教訓であった。王たちの賞賛をかちえたゆるがない高潔な精神、慈愛と無我の精神による親切は、家庭でも発揮された。生活に芳香がただよい、品性の気高さと美しさとは、彼が天と結ばれていることをすべての者にあらわした。彼は、どんなに卑しい身分の奴隷の魂も軽視しなかった。彼の家では、主人としもべを別々に扱い、金持ちと貧者を区別して扱う規則はなかった。だれもが、彼とともに生命の恩恵を受け継ぐ者として、公平と同情をもって扱われた。

アブラハムは「家族に命じ」た。彼は、子供たちの悪の傾向を放任するような恐ろしいことをせず、大目に見て、えこひいきをするような愚かさや弱さもなく、また、誤った愛情におぼれて、自分の義務を曲げることもなかった。彼は、正しい教育を施したばかりでなく、公正と義の律法の權威を保ったのである。

今日、彼の模範にならう者がいかに少ないことであろう。多くの親たちは、盲目的で、利己的な感傷とまちがった愛情に陥り、子供たちが彼らのまだ十分に成長していない判断力と訓練されていない欲望とを欲しいままにするのを放任している。これは、青年たちにとって全く残酷なことであり、世界にとって大きな罪である。家庭と社会の無秩序の原因は、親の怠慢にある。それは神の要求に従うかわりに、青年たちの好むままを行う欲求をますます強固にする。こうして、彼らは神のみこころを行うことをきらって成長し、その非宗教的で不従順な性質を彼らの子孫に伝える。親は、アブラハムのように、家族に服従を命じる必要がある。神の權威に服従する第1歩として、親の權威に服従することを教えて実行させよう。

.....

神の清い律法の要求を低下させようとする人々は、家族と国家の組織の根底に直接攻撃を加える。信仰は持っていても神の律法に従っていない親は、主の道を守るように家族に命じない。神の律法が、生活の規準にされていない。子供たちがそれぞれの家庭を築くときに、彼ら自身が教えられなかったことを子供たちに教える義務は感じない。今日、不信仰な家庭がこんなに多いのはそのためである。墮落がこんなに深く、広く及んでいるのもこのためである。

親自身が全心をこめて主の律法に従って歩かないかぎり、子供たちに服従を命じることはできない。この点に改革が必要で、深く、広い改革が行われなければならない。(『人類のあけぼの』第12章)

5 危機的な状況で、勇気のあった女性

「この時にあたってあなたが口を閉ざしているなら、ユダヤ人の解放と救済は他のところから起こり、あなた自身と父の家は滅ぼされるにちがいない。この時のためにこそ、あなたは王妃の位にまで達したのではないか」(エステル 4:14)

今日の聖句には、危機に直面して、大きな役割を果たした女性が描かれています。ハマンの憎しみにより、イスラエルの民は抹殺されようとしていました。明らかに解決がないと思われるような状況で、優しく賢いエステルが王様の前に現れ、民のためにとりなす働きをするよう、神様は導かれました。エステル王妃は、神様の前で私たちのとりなしをしてくださっているイエス様のような役割を果たしました。

士師記には、危機に直面して、男性より強かった女性たちが描かれています。デボラは、その一人です。デボラはイスラエルの士師の一人で、献身的な妻であり、母であっただけでなく、士師となる青年を教育しました。

その頃、カナンの王であるヤビンは、シセラを送って神の民と戦わせようとしていました。その時、デボラがイスラエルの歴史に偉大な姿を現します。デボラはイスラエル軍の指揮官であるバラクを呼び、戦いに送ろうとします。しかしバラクは恐れて「あなたが共に来てくださらないなら、わたしは行きません」と答えます。そこでデボラは、「わたしも一緒にいきます。ただし今回の出陣で、あなたは榮譽を自分のものとすることはできません。主は女の手でシセラを売り渡されるからです」と答え、バラクと共にケデシュに向かいます。

イスラエルは戦いに勝ちますが、バラクは功労者ではありませんでした。敵の指揮官であるシセラは逃げましたが、ヤエルという女性の手で落ちました。危機的な状況で、ヤエルは賢明な選択をして、イスラエルの民を守ったのです。

キリストの受難の直前に、恐れることなく危機に対応した女性がいました。イエス様から許しと恵みをいただいたマリヤは、カルバリーに最後まで留まり、最初にイエス様の墓にやってきました。

危機に直面して、女性たちはどうして勇気と知恵をもって行動できたのでしょうか？ もしマグダラのマリヤに尋ねたら、彼女はこう答えるでしょう。「私はイエス様からかけ離れた世界で生きていました。私の人生は失敗と後悔の連続でした。けれども、ある日、イエス様の足元で、わたしは勝利の秘訣を見つけたのです」。お姉さんのマルタが大忙しで働いているのに、イエス様の足元で座っているマリヤが目につかぶようですね。そして、他の人たちが宴会を楽しんでいる間に、マリヤがイエス様の足を涙で洗っている光景も。そして、みんなが逃げてしまったあとに、十字架の元にいるマリヤの様子が見えるようです。マリヤも、デボラも、エステルも、そして他の女性たちも、イエス様と十字架から、危機に対応できる力を得たのでした。私たちも、人生の嵐の日に必要な力をいただくことができるのです。

(アレハンドロ・ブーロン 『イエス様のように』英文p.218)

6 結婚関係をよくするために

「清い心で深く愛し合いなさい」(1ペトロの手紙1:22)

その夫妻は金婚式を祝っていました。地元紙はインタビューのために記者を送ってきました。そのとき、夫だけが家にいたので、記者は夫に尋ねました。「幸せで長続きする結婚の秘訣は何ですか？」

年老いた夫が語り始めました。「サラは、私の最初のそして唯一のガールフレンドでした。サラが結婚してくれることになり、とても驚きました。結婚式の後、サラの父親が私と2人だけで話がしたいと、いつてきました。父親は私に小さな箱を渡して、言いました。『この箱の中に、幸せな結婚のために知る必要のあることは全部入っているよ』。箱の中には、金色の腕時計が入っていました」といって、夫は記者に腕時計を見せました。それから、記者が腕時計の表面に掘ってある言葉が読めるように近づけて見せました。「今日、サラに何か親切なことを言いなさい！」老人は微笑んで言いました。「とても単純だけど、本当にききめがあったよ」

他にも、あなたの結婚関係をよくする秘訣があります。完璧な家庭も、欠点のない結婚関係も存在しないことを、忘れずに読んでください。どの夫婦にも、独自の課題や挑戦や、問題があります。けれども、もっとも大切なことは、お互いが幸せを感じるようにすることです。

1. あなたの結婚関係と、他の人たちを比べないでください。あなたの結婚を、世界に1つだけの関係だと考えましょう。どの結婚にも、困難が伴います。イエス様の生涯をあなたの持つべき基準としましょう。
2. 定期的に、結婚の目標を2人で確認しましょう。目標からずれている所はないですか？ 少なくとも、1年に1回は、2人で考えましょう。改善すべきところはどこか？ 喧嘩の原因は何か？ 2人だけで過ごす時間は十分か？
3. 2人で話しましょう。ただ一緒にいるだけでは、十分ではありません。ある人が、テレビのコマーシャルがなければ、だれもしゃべらないだろうと言いました。ある妻がテレビのコマーシャルは短すぎて夫と問題を解決できないと、不満をいつていました。
4. 金銭を夫婦で管理しましょう。典型的な結婚の問題は、金銭と、性生活と、親たちです。経済的な問題は、あなたが思っているより、大きな問題です。予算をたて、それに従うことが大切です。結婚関係のこじれの多くは、金銭によるものです。
5. 愛情のこもった言葉を交わしましょう。結婚前の、親切な手紙やカードを覚えていますか？ 愛情あふれる言葉を、相手にかけて続けましょう。妻の髪型や、夫のネクタイ、料理、家事をしてくれたことをほめましょう。もし本当に愛しているなら、それは言葉と行為に現れるはずです。優しい言葉をくり返せば、恋愛感情がもどってきます。『愛している』と言って、その言葉を心からのキスで封印しましょう。

いつも、この聖句を思い出してください。「清い心で深く愛し合いなさい」(1ペトロ1:22)

(モーゼス・S・ニグリ『日々、主と歩む』英文p.345)

7 両親を大切にすることと長寿の約束

「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる」
(出エジプト 20:12)

キリストに従いたいと心から望むなら、いつもキリストに自分の心に住んでいただき、自分の心の王様になっていただきます。そうするなら、キリストの精神と品性が、家庭でもあなたにも表れるようになり、誰に対しても優しく親切になれるでしょう。真理を知っていると公言しながら、両親の願いをかなえようとしたり、両親の心配事を解決したりせず、両親に尊敬も愛情もしめさない人がいます。

多くのクリスチャンと名乗る人たちは、父母を敬うことがよくわかっていないので、「主が与えられる土地に長く生きる」(出エジプト 20:12)ことの意味も理解できません。天の聖所にある金の秤をつかって自分の心を量るなら、両親にどのような態度をとっているかわかるでしょう。両親を大切にしていないこと、無関心なこと、そして神様の戒めを軽視していたことを、両親に告白しましょう。親たちは、神様から子どもたちを育てる責任を与えられたのですから、親に愛と尊敬をささげるのは、当然のことなのです。親の正当な権威を認めないなら、神様の権威をも認めないことになります。第5の戒めは、子どもたちが親に尊敬を抱き従順であるだけでなく、親を愛することや、大切にし、親の重荷を軽くし、信用を保ち、慰め励ますことも命じています。

第5の戒めは、自分と親の生きる限り、守るべきものなのです。
(エレン・G・ホワイト『神の息子、娘たち』英文p.60)

8 イエス様による幸せな結婚のレシピ

「そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、『水がめに水をいっぱい入れなさい』と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした」(ヨハネ 2:6、7)

イエス様が参列された結婚式で、困ったことが起こりました。最初に最高のぶどう酒をふるまい、あとで品質の劣るものを出すのが、当時のしきたりでした。イエス様が水を最高の品質のぶどう酒に変えたとき、新郎新婦は、とても驚いたことでしょう。こんなことは聞いたこともありません。この物語には、新婚の2人だけでなく、私たちにも大切な教訓があるのです。新婚の夫婦は、自分の最善(最高のぶどう酒のように)をお互いに見せたいと努力します。けれども、時を経て、問題が起きると、2人はあまり努力しなくなります。(劣った品質のぶどう酒のように)キリストは、結婚ははじめもよいが、あとになると、もっとよくなると、教えておられるのです。この物語をもとにした、幸せな結婚のための秘訣をお伝えしましょう。

結婚生活では、最も大切な愛の水がめに水をくみましょう。真心からの愛が、幸せな結婚には必ず必要です。外面的な魅力は、長く続きません。見た目や美しさは幸せな結婚の基本ではありません。真実の愛は、お互いについての理解、交わり、霊的な一致を基礎とするものです。相手への尊敬と配慮も大切です。お互いに尊敬を表現するとき、結婚の基礎が築かれます。

キリストと共に歩むなら、私たちの心から恐れはなくなり、愛で満たされます。神様は愛する能力を、私たちに与えられます。キリストから遠くなると、神様に与えられる深い真実の愛は、2人の心から消えてしまいます。自分の人生をキリストに捧げると、神様は私たちの心にもっと深く広く愛する愛を与えられます。

ロバート・バーンズは、第一コリントの信徒への手紙13章を次のように書き換えています。「わたしの家庭が世の中の富であふれていても、もし愛がなければ、中身の無い殻になってしまう。私の家に知性あふれる人々が集っても、もし愛がなければ、ただの騒がしい家にすぎない。政府の要人に手紙を書いたり、全人類の幸福のために戦っても、愛がなければ、私たちの影響力などすぐに消えてなくなってしまうだろう。真実な家庭の精神は、忍耐強く、親切で、ねたまず、自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みをいだかない。他の家の悲しみをきいては悲しみ、他の家の問題を言いふらさない。いつも最善を信じ、希望にあふれ、忍耐している。このような家庭は決して滅びない。文明は廃れ、知識は時代遅れになり、機関は閉鎖してしまうだろう。私たちは、物事の一部しか知らないし、将来についてもおぼろげにしかわからない。けれども真実の家庭の精神の導きに従うなら、私たちの家庭が天国のようになる。私たちの家庭に、信仰と、希望と、愛がいつもあふれているように。この三つのうちで最も大いなるものは愛である」

毎日、あなたの水がめの縁まで、天国の愛で満たしましょう。そうしたら、結婚が枯れてしまうことはありません。

「神の愛を心から喜ぶ人は、喜びと平安をえるでしょう」(エレン・G・ホワイト『信仰によって生きる』英文p.237) (レオ・ロンズリン『朝露のようなキリスト』英文p.181)

9 神様に選ばれたリベカ

「わたしの一族のいる故郷へ行って、嫁を息子イサクのために連れて来るように」(創世記 24:4)

世界中でどんなに離婚が多くても、男性も女性も、結婚したいと希望し続けます。10代の若者は、自分に幸福をもたらしてくれる人を探し始める。結婚相手を選ぶ模範は、アブラハムが息子のイサクの妻を探した物語に描かれています。

昔は、親たちが結婚相手を決めていました。例えば、私がタンザニアのパーレーンの学校を訪問したことを思い出します。ある日曜日に、若者たちが教会の集いで楽しんでいたとき、教師が私に言いました。「あの2人は、婚約しています。卒業したらすぐに結婚すると、親たちが決めました」。このカップルのように、アブラハムは自分と同じ民から生涯のパートナーをイサクのために迎えたいと思っていました。アブラハムはエリエゼルに、神様が行く手に天使を遣わされると言いました。

長い旅を経て、疲れた旅人は、ナホルの郊外で水を汲みに来る娘を待っています。そこで、エリエゼルは美しい祈りをささげ、神様にしるしをくださるよう願います。エリエゼルの頼みを聞いて水を与えてくれる娘こそ、神様が選ばれた娘であるようにと、祈りました。

この物語を読むと、ワクワクします。「際立って美しい」リベカが肩に水がめを背負ってやってきます。水がめに水を満たすと、エリエゼルが近づいてきて、リベカに頼みます。「水がめの水を少し飲ませてください」(創世記 24:17)。リベカが応えます。「どうぞ、お飲みください」(18節)。そしてリベカはエリエゼルだけでなく、ラクダにも水を飲ませてくれます。

リベカは、献身的で、礼儀正しく、おもてなしの精神をもつ娘でした。エリエゼルが旅路の途中であることをきいたとき、父の家で休むように招きます。アブラハムとエリエゼルだけでなく、イサクも祈って瞑想していたことが、大切です(創世記 6:3)。生涯の伴侶を選ぶために、多くの祈りが必要です。親も子も、主にあって献身的な伴侶となる若いクリスチャンの男性や女性を選ぶのに、神様の導きを求めましょう。

リベカは、エリエゼルの旅の目的を理解しました。リベカも神様を愛する人と結婚したかったのです。兄のラバンが「おまえはこの人と一緒に行きますか」と尋ねたとき、「はい参ります」と答えました。イサクがエリエゼルからリベカについてきくと、リベカの手をとり、「リベカを愛して慰めを得た」のです。

「真の愛は、高く清い原則である。それは、衝動的に生じ、激しく試みられると、急に消えてしまう愛とは全く異なったものである」(『人類のあけぼの』15章)

(レオ・ロンゾリン『朝露のようなキリスト』英文p.181)

10 ヨブは子どもたちのために祈った

「この宴会が一巡りするごとに、ヨブは息子たちを呼び寄せて聖別し、朝早くから彼らの数に相当するいけにえをささげた。『息子たちが罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない』と思ったからである。ヨブはいつもこのようにした」(ヨブ 1:5)

子どもたちとのかかわり方に、原則も結果も異なる二つのやり方があります。神様の言葉に従って、知恵や確固とした態度をもって、忠実と愛で子どもたちを育てる時、地上と天国での生涯は幸福なものとなります。親としての役割を果たさず、分別なく溺愛し、子どもの罪を正さなければ、子どもは不幸になり、その人生は破壊され、親たちは失望と悲しみを経験するでしょう。

親たちが、ヨブの信念と献身の物語から学ぶことは、意義深いことです。ヨブは家族以外の人々にも、自分の役割を忠実に果たしていました。ヨブは情け深く、親切で、他人の利益に配慮していました。自分の家族の救いのためにも、熱心に努力していました。息子や娘の宴会のさなかに、子どもたちが神様を悲しませたのではないかと、心配しました。家庭の忠実な祭司として、子どもたち一人一人のために、いけにえをささげ、祈りました。ヨブは、罪が恐ろしいものだを知っていました。子どもたちが神様を忘れることを心配し、子どもたちのために執り成しの祈りをささげるようになりました。

ヨブは、家庭での影響によって子どもたちが神様に心を捧げ、人生を通して神様のために最高の働きをなすことができるようにと、願っていました。神様の導きにしがった訓練、朝夕の礼拝、神様を愛し畏れる両親の模範により、子どもたちは神様を自分の生涯の教師とし、神様の子どもとして神様のために働く準備をすることを学びます。そのような子どもたちは、キリストの力と恵みを世界に証しすることができるのです。

(エレン・G・ホワイト『神の息子、娘たち』英文p.257)

11 家庭での愛

「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい」(エフェソ 5:25)

結婚関係の原則は、「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい」(エフェソ 5:22)という聖句だけだと決めつけている夫たちがいます。彼らは、聖句を文脈から切り離さずに学ぶということを忘れていきます。22節から33節をひとかたまりとして読むとき、幸せなクリスチャンの結婚生活についての調和のとれた原則を学ぶことができます。

「キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように」夫が妻を愛するなら、妻が夫に仕えることに、何の問題もないはずですが。夫の権威は力によって押し付けられるものではなく、キリストの愛のような最高の犠牲をはらうほどの愛情をもって、得るものなのです。

多くの家庭の問題は、愛がないことではなく、親切な言葉や行為に愛が表現されていないことにあります。50年にわたる結婚生活の末に、妻を亡くした夫の悲しい物語は、この問題の一例です。葬儀の後で、牧師がこの男性の隣に座って、話していました。

「ジョンさん、メアリーさんは、本当によい奥さんでしたね」

「ええ」ジョンが答えました。

「奥さんを愛していたんですね」

「牧師さん、その通りです。メアリーは、本当に素晴らしい女性でした。メアリーを愛していました。そのことを、伝えようと思っていたのです」

残念なことに、このような悲しいことが多くの家庭で起こっています。伴侶は、自分がどれほど愛しているか知っているに違いないと、疑うことなく信じていて、そのことを口に出すことはありません。愛情あふれる言葉や、愛情をしめす行為によって、家庭から混乱を拭き去ることができます。表現されなければ、愛はか弱い植物のように、すぐに弱ってしまいます。今日こそ、私たちの心からの愛情を、伴侶に表現しましょう。明日は、遅すぎるかもしれません。

次の、尊いアドバイスに耳を傾けてください。「家庭を聖なる場所であるベテルとしましょう。心の畑を、愛情の表現で、肥えさせてください」(エレン・G・ホワイト『両親、教師、生徒たちへの勧告』英文p.114)
(ジークフリード・J・シュワンテス『より神様に近く』英文p.124)

12 子どもたちの教育

「妻は家の奥にいて、豊かな房をつけるぶどうの木。食卓を囲む子らは、オリーブの若木」(詩編 128:3)

サミュエル・テイラー・コーリッジは、宗教的な教育は必要ないとする女性と話をしていました。彼女によると、子どもたちは自然にまかせて成長するべきで、その方が識別力が育ち、人間として成熟し、理にかなった決断をすると、いうのです。この考えは、もっともらしいけれども、誤解をはらんでいるように聞こえます。

コーリッジは、その女性の話をききながら、あまりしゃべりませんでした。そして、庭を散歩しようと誘ったのです。彼は女性を雑草が生い茂った場所に連れてきました。「私の庭について、どう思われますか。美しいでしょう」と、詩人であるコーリッジはたずねました。「庭ですって？ これが庭と呼べますか？ 雑草の茂ったやぶではないですか？」女性は答えました。「数か月前、雑草の伸びるにまかせておこうと、思いました」。即座に、女性はコーリッジの言いたいことが理解できました。

私の親戚は、「なすがままにまかせる」子育てがよいと考えていました。親戚の子どもたちが大人になったとき、どの宗教にも関心がなかったのは、当然でした。今では、親戚は子どもたちが信仰について冗談を言い、倫理的な道徳観もないことで、後悔しています。子どもたちは、すべての権威に反抗的です。

クリスチャンの原則を子どもたちに教えたからと言って、子どもたちがそれに従う保証はありません。結局、人間は、選択する能力を与えられています。残念なことに、間違った選択をすることもあるのです。(ヨシュア 24:15 とローマ 14:12 を読んでください。)お手軽な教育は、間違った選択をする可能性を高めます。クリスチャンの原則を家庭で教えても、子どもたちが間違った選択をすることもあります。親たちは最善を尽くしたと思えるでしょう。

(ドナルド・マンセル&ヴェスタ・マンセル『朝日のようにならず』英文p.273)

13 家庭の中の教会

「彼らの家に集まる教会の人々にもよろしく」(ローマ 16:5)

すべての家庭が教会であるべきだということを思い出すなら、使徒パウロの「彼らの家に集まる教会」という言葉は、新しい躍動的な意味をもって聞こえます。

ある若い日本人の女性がクリスチャンの家庭でクリスマス休暇を過ごすことになりました。休暇の終わりに、夫人が欧米人の暮らしを体験して楽しかったかと、尋ねました。「ええ、とても楽しかったです。お宅もとても素敵です。でも、何かあなたのお宅に足りないようで、不思議に思いました。あなたの通う教会に出席して、あなたが礼拝する様子もみましたけれど、お宅には、神様がおられないようです。私の国では、どの家でも、神様を祀る場所があります。神様はいつもそこにおられます。お宅でも、神様を礼拝しますか？」

多くのクリスチャン家庭は、この世の影響を受け、神様の存在を失っています。人々は、生き残ることで、精一杯です。高いストレスが、ディボーションの習慣を妨げています。テレビ番組やドラマは、熱心に視聴されています。娯楽が、神様と過ごす時間をなくさせています。家庭は、家族にとっての教会ではなくなってしまいました。「お宅には、神様がおられないようです」という日本人女性の言葉は、クリスチャン家庭で神様の存在を感じられないことを示しています。

親として、子どもたちにイエス様の生涯について教えることは、義務であり、特権です。「注意深く、賢明に、そしてやさしく、キリストのような奉仕の道へ子どもを導かなければならない。わたしたちは自分の子どもを、神の働きのために育てるという神聖な契約を神と結んでいる。子どもが奉仕の生涯を選ぶにいたるような感化の力で彼らをかこみ、必要な教育を与えることは、わたしたちの第1の義務である」(『アドベンチスト・ホーム』第78章)

パウロにとって、テモテは最良の協力者でした。テモテは神様を敬う家庭に育ちました。「そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています」(2テモテ 1:5)

非行少年や犯罪者を育ててしまう家庭がある一方で、社会に貢献する人々を育てる家庭があります。そのような人々を育てる親は、テモテの家庭のように、信仰を持つ人々です。父親も、母親も、子どもたちの品性が成長するのを助ける神様の代理人です。神様はあなたの家庭におられるでしょうか？

(エノク・デ・オリベイラ『Bom Dia Senhor』英文p.171)

14 なぜ、結婚が破綻してしまうのか

「従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」(マルコ 10:9)

自分の知っている人が離婚したときと、悲しい気持ちになります。2人の結婚式や、誓いの言葉を思い出します。ブーケや、披露宴や、花嫁の入場などを思い返すと、結婚式は喜びの時でした。2人が一緒に祭壇にたち、牧師がアドバイスをします。15年、20年、40年と結婚生活を続けている者たちも、助言をしたい気持ちになります。2人は将来の思わぬ展開も戦いも全く知らないのですから、先輩は2人を助けることができます。

家庭は、時間をかけて、少しずつ、壊れていきます。突然、崩壊するものではありません。不満、誤解、些細ないらだちの蓄積が、原因となります。そして、ある日、どちらかが相手に我慢できなくなります。お互いを敬う気持ちはすべてなくなってしまう。なんと、悲しいことでしょうか。それよりも悲しいのは、結婚関係がこわれていることに気づかない伴侶がいることです。結婚は健康と似ています。失って初めて、そのありがたさに気づくのです。「私たちの結婚が破綻した」という表現をききますが、破綻したのは結婚ではなく、当事者である2人なのです。

世界中どこでも、離婚が起こらない場所はありません。離婚率は上昇する一方で、離婚による心の傷を負う子どもたちのことは、見過ごされることが多いのです。子どもたちこそ、被害者です。私の妻のルシアは摂食障害を持つ生徒たちを指導しています。妻は、生徒たちの目線で、親たちの離婚を見ます。子どもたちの成績は下がります。子どもたちは、勉強に興味がわかなくなり、学校の活動にも参加しなくなります。子どもたちは、怒り、悲しみ、傷つきます。

コロンビア大学のケネス・ジョンソン博士の言葉です。「30万人の子どもたち(現在は100万人を超える)が命にかかわる病気に襲われる危険があります。親が離婚をした子どもたちは、感情的に障害をもち、心的外傷を受ける可能性があります。離婚によって感情に障害を追う可能性は、身体的な障害を負う可能性よりずっと大きいものです」

離婚について、ロサンゼルスタイムズが、このように報道していました。「恋におち、婚約して、結婚するのはすべて重大な決断だ。しかし、ほとんどの若者は、ポップコーンを屋台で売る仲間を探すよりも簡単に、それらの重大な決断をくだしている。どの動物にも共通な性的な情熱が、愛情より優先されて、決断が下されている」

結婚を崩す、4つの楔くさびについて、ある人が語っていました。一つは、時間の楔くさびです。夫婦が家庭礼拝の時間をとらないことです。二つ目は、金銭の楔くさびです。クリスチャンの管理者にふさわしい管理がされていないことです。三つ目は、家庭の外での交際です。夫婦がそれぞれの友達とばかり時間を過ごし、他人にお互いの批判をすることです。最後の楔くさびは、家族関係です。2人がお互いに関心を向けることで愛情を育むことを忘れ、キリストの香りと喜びをあらわす愛の花を守る努力を怠ることです。

「主は恵みに恵みを加えられる。恵みのたくわえがつきるといことがない」(『各時代の希望』上 第15章)
(レオ・ロンズリン『朝露のようなキリスト』英文p.178)

15 家庭礼拝の大切さを忘れないように

「わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように」

(1 テモテ 6:17)

もし家庭生活も、社会生活もキリスト教の原則に従っているなら、私たちはもっと幸せで、役に立ち、キリストの柔和と純真を伝える者となるでしょう。明るさと共感と愛で、わたしたちが周りの人を幸せにすることができるよう、切に願います。

私たちの家を訪ねる客に快適に過ごしてもらうことばかり考えて、神様からいただいた任務を忘れることのないようにしましょう。どのような場合でも、祈りの時間を大切にしましょう。…落ち着いて、神様に心を開くことのできる夕方に、祈りをささげ、感謝に満ちた賛美をしましょう。祈りの時間は最も聖なるもので、尊く、一番幸せなときだと、あなたを訪問するすべての人が感じられますように。そのような模範が、人の心に効果的に働きます。

ディボーションの時間は、参加するすべての人の心を清めます。正しい思考と、今まで思いもつかなかったすばらしい願いが、心に起こります。祈りのときは、平安と疲れた魂への癒しをもたらします。クリスチャンホームは、平安と癒しの雰囲気です。

すべての行為をとおして、クリスチャンは神様を表し、神様の素晴らしさを伝えるようにつとめましょう。

多くの人が抱く試練や不安の10分の9は、想像上のものか、自分の罪の結果です。このような試練について語ったり、誇張するのはやめましょう。クリスチャンは、すべての心配を神様にゆだねることができます。愛情に満ちた神様にとって、小さすぎて気づかない心配などありません。大きすぎて、神様が負うことのできない重荷もありません。

神様にすべてをゆだねたら、心と家庭を整えましょう。神様を畏れることが知恵のはじめであると、子どもたちに教えましょう。明るく、秩序のある生活を送り、「わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神」様(1 テモテ 6:17)への感謝と愛を表現しましょう。けれども、罪人である私たちのために苦しまれ、そして天国への道を開いてくださった愛するイエス様を、いつも思うようにしましょう。

イエス様への愛は隠せません。それは見て、触れることのできるものなのです。そしてイエス様への愛は、驚くべき力を与え、臆病な者を大胆にし、いい加減な者を誠実にし、無学な者を賢くします。口下手な人は雄弁になり、眠っている知性は呼び起こされ、失望した人は希望を持つようになり、不機嫌な人は喜びにあふれます。キリストを愛するとき、私たちはキリストのために責任を負うようになり、キリストの力をうけてその責任を果たすことができます。

(エレン・G・ホワイト『父なる神の愛』英文p.297)

16 愛は、罰をのぞまない

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない」(1 コリント 13:4)

今日は、妬みについて考えましょう。妬みとは何でしょうか。妬みを感じると、心は傷つきます。感情の制御ができなくなります。一般に、妬みは自分が愛していると思う相手を、自分のものにしたいという願いから生まれ、その願いは相手を失う恐れに変わります。一見、妬みはロマンチックな感情のように思えますが、歪んだ思考につながります。妬みは破壊的で、真実の愛や平和の成長を止めてしまいます。

C・ダイアンは、次のように語っています。「妬みは、愛の中にある憎しみという名の虫と同じです。その小さな虫は、常に痛みを引き起こし、時には愛を枯らしてしまいます」。これは、とてもよいたとえです。妬みは、憎しみに満ちた家庭で生まれます。妬みと憎しみを区別することはできません。一般に、妬みに支配されると、感情の制御ができなくなります。そのため、妬みにより異常な行動を起こすこともあります。自分が何をしたかに気づいたときには、遅すぎることもあります。

使徒パウロは、適切な言葉で真実の愛について語っています。「礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない」(1 コリント 13:5)

真実の愛と、妬みの鋭い爪に囲まれた人の好意とは、全く異なるものです。真実の愛は、自己中心ではありません。妬みは、自分の利益だけを求めます。真実の愛は、相手の最善を求めます。真実の愛があれば、どんなことにもいらだたず、自分が招いた失敗の結果として苦しむことを当然とは思いません。

心から妬みをしめだすことで、多くの悪を避けることができます。小さな火花でも、大きな火事に発展します。後悔することになるよりは、安全であることの方がずっとよいでしょう。真実の愛で私たちの心が満ちるように、神様からのたくさんの助けが必要です。

(『日々の瞑想』英文p.23)

17 家族の調和

「イスラエルは、ヨセフが年寄り子であったので、どの息子よりもかわいがり、彼には裾の長い晴れ着をつくってやった」(創世記 37:3)

多くの家庭と同じように、ヤコブの家族も問題を抱えていました。ヨセフは父親に特別に愛されていました。ある日、ヤコブはヨセフに色とりどりの布で作った晴れ着を与えました。それまでも、兄たちはヨセフのことを妬んでいましたが、この晴れ着が悲劇を引き起こしました。

父の羊の群れの世話をしながら、兄たちはどうやって父のえこひいきを止めさせるか、計画を練っていました。ヨセフが父からのお土産をもって兄たちの様子をみにくると、兄たちはその計画を実行に移しました。全員が賛成したわけではなかったのですが、ヨセフはたった 17 歳で遠いエジプトへ奴隷として売り飛ばされることになりました。

親たちが子どもたちを平等に扱うのは難しいことです。どの息子も娘も、独自の性格をもっています。年齢も、好みも、健康状態も、行動も、違います。そのため、親たちはそれぞれのこどもに関して、違う選択をします。一人の子どもに効果のあった対応が、他の子どもにもうまくいくとは、かぎりません。

そこで、親たちに知恵が必要です。神様の導きと、子どもとの隠し立てのない率直な話し合いが、最善の方法です。親が子どもに注意深く話せば、病気の弟や妹にもっと優しくする必要のあることを理解してもらえます。それでも、親たちはひいきをしていると見られないようにしましょう。ひいきは、子どもたちの人格の形成に深刻な害を及ぼします。ひいきされた子どもは、困難に遭うと親に頼り続けます。妬みを感じて育った子どもは、常にすべての物事や人間に対して反抗的になります。

親たちは、バランスのとれた、適度な愛情を子どもたちにしめしましょう。家庭を平和と調和に満ちた場所にするよう、努めましょう。そうすれば、神様から遣わされる天使たちも、あなたの家庭を居心地がよいと感じるようになるでしょう。

(『日々の瞑想』英文p.126)

18 家庭での会話

「曲がった言葉をあなたの口から退けひねくれた言葉を唇から遠ざけよ」(箴言 4:24)

「幸せな結婚」という題の新聞記事を、読んだことがあります。その記事は、ロンドンの結婚に関するセラピー専門家の学会における、デンバー大学のハワード・マークマン教授の発表について書いていました。教授によれば、どんな夫婦喧嘩をするかで、結婚生活の成功の度合いがわかるというのです。夫婦が喧嘩をするときに用いる戦略によって、離婚の可能性がわかるそうです。

マークマン教授は、よく喧嘩をする 1000 の夫婦について調査をしました。教授によればもっとも危険な夫婦は、喧嘩になると逃げたり、些細なことを大喧嘩に発展させる、ということです。よくあることだと思います。洗面所で石鹸を置く場所や、歯磨き粉のチューブの絞り方などについて、喧嘩する夫婦がいます。小さな意見の違いが、結婚生活における重大な問題の解決を妨げています。ついには、結婚生活は別居や離婚にまでつながってしまうのです。

マークマン教授は、次の事柄について、真剣に深く考える必要があると述べています。「相手に対する攻撃的な言葉は、5 つ、または 10、もしくはそれ以上の数の親切な行為を消してしまいます。」

夫婦が別居を考えているなら、別居によって傷つく子どもたちのことを考えて、やめるべきです。離婚により、子どもたちは父親や母親を失い、親の協力や助言、親との交わりを失ってしまいます。夫婦は自分たちの選択が周りにどのような影響を与えるか、注意深く考えましょう。

理性と知性を与えられた私たちは、些細なことで喧嘩をして時間を費やすのをやめ、相手の話を傾聴するようにしましょう。伴侶の考え方を理解しましょう。相手の考えに賛成できなくても、家庭の平和と幸福を保ちましょう。必要なら、相手の考えを優先しましょう。忍耐強くなることを学び、妥協点を見つけましょう。

神様の愛に根差した親切な言葉と行為よりも効果的に家族の心に働くものはありません。

(『日々の瞑想』英文p.152)

19 迷子なのは子ども？ それとも親？

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである』」(マルコ 10:13、14)

大きなスーパーマーケットで、このような館内放送が流れました。「サービスカウンターにて、お父様が迷子になってしまったとおっしゃる男の子をお預かりしております」

ある朝のこと、夫婦は小さな息子がいなくなっているのに気づきました。夫婦は心配して息子を探しました。ご近所や、友達、警察にまで頼んで探してもらいました。ご近所のすべての家の中も、広場も、森も、搜索されました。けれども、何の手がかりもありませんでした。

その朝は、いつもなら家族と一緒に集会に参加することにしていました。それで、誰かが集会の場所を探すことを提案しました。やっぱり、男の子はいつもの集会の場所で、持ってきた小さなおもちゃで静かに遊んでいました。両親は息子を抱きしめ、心から安堵しました。母親は涙をぬぐいながら言いました。「かわいい子、迷子になっていたあなたを見つけられて本当によかったわ」

男の子は答えました。「ママ、ぼくは迷子になってないよ。ずっと教会にいたよ」

これら二つの出来事は、迷子の子どもより、迷子の親たちについての物語です。純真で無垢な子どもたちは、神様と一緒にいたいという、素直で自然な願いがあります。親や大人たちは、子どもたちがイエス様に従いたいと願う気持ちを邪魔して、子どもたちの霊的な成長を妨げてしまうことがあります。

だから、イエス様は弟子たちが子どもたちを追い払おうとしたとき、お叱りになったのでしょう。「イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである』」(マルコ 10:14)。イエス様の弟子たちへの警告を、私たちも真摯に受け止めましょう。

(『日々の瞑想』英文p.165)

20 あなたの家で何をみましたか？

「更に、『彼らは王宮で何を見たのですか』と問うと、ヒゼキヤは、『王宮の中にあるものは何もかも見ました。倉庫の中のものも見せなかったものは何一つありません』と答えた」(イザヤ 39:4)

ヒゼキヤ王はとても重い病気にかかっていたのですが、神様はお祈りをきかれ、王様は健康を回復しました。預言者イザヤは王様に神様の恵みが注がれて癒されると告げ、そのしるしも与えました。イザヤは、「ここに主によって与えられるしるしがあります。それによって、主は約束なされたことを実現されることが分かります。『見よ、わたしは日時計の影、太陽によってアハズの日時計に落ちた影を、十度後戻りさせる』」(イザヤ 38:7, 8)。この不思議な出来事は、遠いメソポタミア地方に伝わりました。バビロンの王、メロダク・バルアダンはヒゼキヤ王の回復を祝うため、使者を遣わしました。メロダク・バルアダンは、ヒゼキヤ王と同盟を結び、協力してアッシリアと戦おうと思っていました。

使者たちからの訪問という名誉を受けて、ヒゼキヤ王はすべての宝物と武器を見せて回りました。ヒゼキヤ王は、自分が試されていることに気づきませんでした。そして、ヒゼキヤ王は大きな失敗をしてしまったのです。「神はヒゼキヤを試み、その心にある事を知り尽くすために、彼を捨て置かれた」(歴代誌下 32:31)。その時、預言者イザヤがやってきて、ヒゼキヤ王に尋ねました。「彼らは王宮で何を見たのですか」

私たちがお客様を迎えると、天使たちは同じように尋ねます。「彼らはあなたの家で何を見たのですか」。お客様が私たちの家で見える物を、三つのグループに分けることができます。まず、私たちの持ち物を見るでしょう。豪華な家具、華やかなカーテン、高価な食器などを見るかもしれません。そのような家は美術館のようですが、外見にすぎません。その家に住む人を見るかもしれません。穏やかな夫、才能にあふれた、または気位の高い妻、小さな独裁者のように威張っている子どもたちを見るかもしれません。けれども、お客様が一番深い印象を受けるのは、物や人ではありません。その家の雰囲気です。その家は、平安と献身の雰囲気であふれているかもしれません。そのような家を訪れたら、お客様は神様への信仰を深くすることができるでしょう。天使の存在を感じることでしょ。

ヨハネによる福音書 12 章 21 節には、ギリシャ人たちが弟子のひとりに、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と熱心に頼んだことが、記されています。私たちの家庭を訪ねる方々も、同じようにイエス様にお目にかかりたいのでしょうか？ 私たちの家庭は、そのようなお客様をがっかりさせてはいないでしょうか？

ヒゼキヤ王は、神様について、そして神様の素晴らしい祝福について証しするまたとないチャンスを無駄にしてしまいました。私たちも同じ間違いを犯してはいないでしょうか？ 自分自身に尋ねてみましょう。

(ジークフリート・J・シュワントス『より神に近く』英文p.118)

21 子どものための時間

「父親たち、子供をいらだたせてはならない。いじけるといけないからです」(コロサイ 3:21)

子どもたちにとって、父親が生きているのに、親がいないかのように感じるほど、つらいことはありません。次のお話を読んでください。

仕事で忙しく一日を過ごした父親は、帰ってきて、ソファーに心地よく座り、新聞を読んでリラックスしていました。その時、10代になったばかりの息子がやって来て、お父さんの肩に手をかけ、「パパ、パパ」と呼びかけました。

父親は新聞から目をそらすこともせず、言いました。「何がほしいのか？ いくら必要なのか？」息子は答えました。「ぼくが必要なのはお金じゃなくて、パパだよ」

同じようなことが、くり返し起こっています。父親や、母親、時には2人ともが経済的な豊かさや仕事に成功することで忙しく、子どもに時間を割くことが出来なくなっている家庭が増えています。経済的に豊かになれば、すべての問題は解決すると、多くの人々が考えています。

「ぼくが必要なのはお金じゃなくて、パパだよ」と、たくさん子どもたちが心の中で叫んでいます。父親や母親が子どものために時間を使うことほど、良い時間の使い方はありません。子どもたちの叫びに応えるため、親たちは、計画して、意思を働かせて子どもを優先しましょう。

計画して、と書きましたが、私は親たちが毎日の予定に子どもたちと過ごす時間を入れるべきだと思います。子どもとの時間は、仕事上の約束と同じくらい、大切なものです。ただ、長い時間を一緒にすごせばよいというわけではありません。子どもと向き合う良質な時間をすごしましょう。

子どもとの時間を優先するためには、忍耐が必要です。子どものために、時間と愛と親切を捧げるのに、遅すぎることはありません。時がきたら、子どもたちは私たちの投資したものを増やして返してくれます。親たちがお金では買えない愛を与えてくれたと、子どもたちが気づくときはいつか来るのです。

(『日々の瞑想』英文p.346)

22 愛の歌

「大水も愛を消すことはできない。洪水もそれを押し流すことはできない。愛を支配しようと財宝などを差し出す人があればその人は必ずさげすまれる」(雅歌 8:7)

妻のベスタと結婚して、もうすぐ 40 年になります。私たちの結婚はとても幸せで、神様に祝福されたものです。私たちの努力ではなく、神様のお導きによります。

天のお父様の次に、私の地上の父親も、私たちの幸福に貢献してくれました。父の家庭は幸せではありませんでした。赤ちゃんだった父が母親に抱かれている時には、両親はすでに離婚していました。けれども、ある日、父は自分の心を神様に捧げる決心をして、神様に仕える人生を歩み始めました。その結果、父は母へと、神様によって導かれました。母も、そのときすでに神様に献身していました。そして神様は母も、父へと導いてくださったのです。

私は両親が喧嘩をするのを見たことはありません。私が大人になってから、父に尋ねたことがあります。「お母さんとけんかしたことある？」父の答えに驚きました。

「けんかしたことはあるよ。でも、子どもたちの前では一度もしたことがない。イエス様の十字架の前に夫婦と一緒にひざまずけば、どんなに大きな問題でも解決できたからね」

私は小さいころから、お互いに対する両親の愛を見て育ちました。年をとっても、2 人の恋愛関係は続いています。

孫たちも、祖父母の愛情を目の当たりにします。ベスタと私は、結婚式の日から、この模範に従おうと努力してきました。人生は不確かなものです。何か起きたとき、相手との最後の思い出は楽しいものであってほしいです。

この罪の世界では、一晩で状況が全く変わってしまうこともあります。人生が不確かなので、私たちは「肉に頼らない」(フィリピ 3:3)のです。「主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなしい。主御自身が守ってくださるのでなければ 町を守る人が目覚めているのもむなしい」(詩編 127:1)。いつも私たちの命を完全に神様にお任せすることが、一番安全です。私たちは、そのように決心しました。あなたの決心も、私たちと同じでありますように。

(ドナルド・マンセル&ヴェスタ・マンセル『朝日のようにならず』英文p.273)

23 家庭は愛のあるところ

「ヤコブはラケルのために七年間働いたが、彼女を愛していたので、それはほんの数日のように思われた」(創世記 29:20)

飛行機事故や、危険な事件が起きると、メディアは安全への関心をかきたてます。政治家は興奮し、政府は安全のための政策を打ち出そうとします。崩壊してしまった家庭、不幸な子どもたち、傷ついた心に出逢うとき、もっとよい安全規則が家庭や教会に必要だと感じます。

ある男性が、子どもたちのために彼ができる最高のことについて尋ねるため、カウンセラーを訪れました。彼は、どのような学校に入れ、どのような環境に住むかなど、子どもたちの教育に関するアドバイスを期待していました。けれども、カウンセラーの答えに、彼は驚いてしまいました。「父親が子どもたちの母親、つまり自分の妻を愛するのが、子どもたちのためにできる最高のことです。父親が心の底から妻を愛している家庭に育つことは、子どもたちにとって祝福です。何でも買ってくれる家庭に育つより、ずっと素晴らしいことです」

幸せに始まった結婚生活が、離婚に終わることは、人間にとって最も悲しい経験の一つです。

「家族の絆は、地上における何ものよりも親密で最も優しく、神聖なものである。それは人類の祝福となるために計画された。懸命に事を運び、神を畏れ、責任を十分に考慮して結婚の誓いがなされるならば、それは祝福である」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』29章)

私たちの家庭を愛と平和で満たしましょう。相手に愛情を求めるのではなく、自分から愛しましょう。そうすれば、幸せな場所に生きることがどんなに素晴らしいかわかるでしょう。

(『日々の瞑想』英文p.346)

24 神様の家庭

「わたしは、高く、聖なる所に住み 打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり へりくだる霊の人に命を得させ 打ち砕かれた心の人に命を得させる」(イザヤ 57:15)

1791年、ジョン・ハワード・ペインはニューヨークで生まれました。彼はアメリカ合衆国だけでなくイギリスやフランスでも有名な俳優になりました。彼は1842年から1845年と、1851年から1852年の2回にわたり、北アフリカのチュニジアでアメリカの大使をしていました。チュニジアで亡くなり、葬られました。けれども30年して、彼の遺体はアメリカへ持ち帰られ、首都にあるダンバートン・オークス墓地に、多くの著名人に混じって埋葬されました。

ペインの埋葬の日、アメリカ議会と最高裁判所は、執務を中断して哀悼の意を表しました。大統領、副大統領、そして政府の要人も、ペンシルベニア通りにおける葬列に加わりました。ペインがそのような名誉を受けたのはなぜでしょう？ 彼が有名だったからでしょうか？ 違います。名誉ある大使だったからでしょうか？ それも違います。ペインは多くの愛唱歌である美しい「ホーム・スイート・ホーム」の作者だからです。彼の墓前で、1000人からなるコワイヤーが、この歌を歌いました。

「埴生の宿もわが宿 玉のよそい うらやまじ のどかはありや 春のそら 花はあるじ 鳥は友 おおわが宿よ たのしとも たのもしや」

家庭という言葉は、どの言語にも存在します。家庭は神様を愛し、お互いを愛するところです。ソロモンは神様のみ名のための家を建てたいと願っていました。神様は、ご自身のご臨在によって、その家を祝福されました。預言者イザヤは、神様はへりくだる者と共にいてくださる、と書いています。なんと崇高なことでしょうか？ 私たちは、神様を自分の心にお迎えし、宿っていただくことができます。あなたの心は、へりくだっているのでしょうか？ あなたの間違いや罪を神様に告白しているのでしょうか？ あなたは謙遜でしょうか？ もしそうならば、あなたは神様の喜びがどんなに素晴らしいかわかるでしょう。

(エリック・B・ハル『神様を第一に』英文p.182)

25 クリスマン家庭の影響力

「わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」(ヨハネ 8:12)

私たちの時間、能力、力は神様のものです。それらが神様の働きに捧げられるなら、私たちの光は輝きます。その光は、私たちの家庭で最も明るく輝きます。家族とは、緊密な絆で結ばれているからです。この輝きは、家庭だけでなく、社会に届きます。けれどもこの光を見ようとしなない人、光の中を歩こうとしなない人もいます。「光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ」(ヨハネ 3:19)と、私たちの救い主が語っておられる人のことです。そのような人は危険の中にいるので、私たちの光が必要なのです。

警告の灯りを無視したために岩にあたって砕けてしまった船があったからといって、燈台守は灯を消してしまうでしょうか？ そんなことは、ありません。危険の中にある船員たちのために、燈台守は一晩中灯りを灯し、暗闇に光線を発し続けます。灯りが消えていたために遭難した船があれば、そのニュースは世界中に打電されるでしょう。しかし、光が灯っていながらも、船員たちがそれを無視したら、燈台守の責任ではありません。警告されたのに、注意を払わなかった船員たちに責任があるのです。

家庭の灯りが消えてしまったら、どうなるでしょうか？ 灯りが消えると、家庭は暗闇で覆われてしまうでしょう。そしてその結末は、灯台の灯りが消えたように、悲劇をもたらします。あなたの周りの人々は、あなたがこの世の困難に振り回されているか、将来の永遠の命のために準備をしているか、観察しています。あなたの生活はどのような影響力を発揮しているか、あなたは家庭でも真の宣教師であるか、そして子どもたちを天国に備えて育てているか、知りたいと思っています。

クリスマンの第一の役割は家庭の中にあります。父親も、母親も、この世で最も重い責任を負っています。あなたは、子どもたちを永遠の命か、永遠の死のどちらかへと導いています。自分を満足させるために生きるか、それとも神様に永遠の賛美を捧げるために生きるか、どちらを子どもたちに選ばせているでしょうか？ 神様から託された子どもたちが、神様に似たものとなるように育てることが、あなたのつとめです。(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1886年11月14日号)

(エレン・G・ホワイト『キリストを反映する』英文p.167)

26 家族にとって聖書は神様の声

「見よ、子らは主からいただく嗣業。胎の実りは報い」(詩編 127:3)

親に改革が必要であり、牧師に改革が必要である。彼らの家庭に、神が必要である。もし彼らに変化を希望するならば、彼らの家庭に神の言葉を入れ、その勧告に従わなければならない。それは、彼らに語る神の声であり、それに絶対に服従すべきであることを、彼らは子供たちに教えなければならない。親は忍耐深く子供たちを教え、神を喜ばせるためには、どのように生きるべきかを、やさしく、たゆまず教えなければならない。こうした家庭の子供たちは無神論の詭弁に立ちむかう準備がある。彼らは、聖書を彼らの信仰の基礎として受け入れた。彼らは、懐疑論の潮流に流されない土台を持っている。

あまりにも多くの家庭で、祈りがなおざりにされている。親たちは、朝夕の礼拝をする時間がないと考えている。彼らは、植物を繁茂させる輝く日光や雨、聖天使の保護などの豊かな恵みに対して、神に感謝する時間を少しもさくことをしない。彼らは、神の助けと導きを求め、家庭にイエスがおとどまりになるように、祈りを捧げる時間を持たない。彼らは、神についても天のことについても考えず、牛馬のように働く。彼らが何の望みもなく、失われることのないように、その贖いとして、神のみ子は生命をお与えになった。人間は、それほど尊い魂を持っている。

昔の父祖たちのように、神を愛すると告白する者は、どこに天幕を張っても、そこに主の祭壇を築かなければならない。すべての家が祈りの家でなければならない時があるとすれば、それは今である。父親も、母親も、自分たちと子供たちのために、謙遜に願いをなし、心を神にむけなければならない。父親は、家庭の祭司として、朝夕の犠牲を神の祭壇に捧げ、妻と子供たちは、祈りと賛美に加わろう。イエスはそうした家庭に喜んでとどまられる。

すべてのクリスチャンの家庭から、清い光が輝き出なければならない。愛は、行動に現されるべきである。愛は、家庭のすべての交わりにあふれ出て、思いやりとおだやかさと、自分を忘れたやさしさとなって現れるべきである。この原則が実行されている家庭がある。それは、神が礼拝され、真の愛が支配している家庭である。これらの家庭から、朝夕の祈りはこうばしいかおりのように、神のみもとにのぼり、神の恵みと祝福は朝露のように祈る者の上に降るのである。(『人類のあけぼの』上 第12章)

この世で、キリストの教えを受けたものは、その身につけた神の性質を全部天の住居に持っていくのです。(『心を育てる家庭教育』第2章)

(エレン・G・ホワイト『キリストを反映する』p.182)

27 天の力をいただくこと

「わたしたちの神、主の喜びが わたしたちの上にありますように。

わたしたちの手の働きを わたしたちのために確かなものとし

私たちの手の働きを どうか確かなものにして下さい」(詩編 90:17)

子どもたちに、^{かたしよく}癩癩をおさえてキリストのような愛に満ちた心を育むように、教えましょう。神様の働きを喜んでするように、また娯楽の場所よりも教会へ行きたいと思うように、子どもたちを導きましょう。信仰が実際の生活の基盤となるように教えましょう。もし、信仰はただ感じるものだと教えられたら、わたしは無益な一生をおくることになったでしょう。けれども、私は、神様と自分との関係を、私がどう感じるかで左右させたことはありません。自分がどのように感じようと、私は一日の初めにも、昼にも、夜にも神様を求め、力の源である神様から生きる力をいただけてきました。

母親であるあなたは、子どもたちの心をより美しいものとし、品性を高めるために、努力してきたでしょうか？ 天の神様に頼り、子どもたちが天国に入るように、また永遠の命を得られるように育てるための力と知恵を求めているでしょうか？

もしかしたら、母親が夜も忙しくて、祈りやお休みの挨拶をせずに子どもたちを寝させてしまうことはないでしょうか？ 愛のリボンで子どもたちの傷つきやすい心を自分につなぎ留めることを忘れてはいないでしょうか？

家庭で子どもたちに信仰を伝えることばかり私たちが勧めるので、不思議に思う方もおられるでしょう。あまりにも多くの家庭で、その大切な働きがなおざりにされています。親は神様のしもべとして、託された子どもの将来の責任を負っています。多くの子どもたちが、敬神の思いもなく、信仰に関心を持たず、感謝もせず、清さを持たずに成長しています。

このような子どもたちが適切に訓練され、神様の導きの下に成長するなら、天国の天使たちはあなたの家庭に集うことでしょう。あなたが真の家庭の宣教師なら、子どもたちを神様のために共に力を合わせて働く者へと育てるでしょう。

神様の働きのために協力して働く家族は、周りの人々に深い印象を与えます。キリスト教がどれほど素晴らしいかをあらわす力強い証しです。その家庭が子どもたちに良い影響を与えていて、アブラハムの神様がその家庭と共にいてくださることを、周りの人々は知るようになります。そのような力のある証しは、家庭の外の人々にも影響を与えます。クリスチャンの家庭が正しい信仰に根差した生活をしているなら、大きな影響力を発揮します。そのような家庭こそ、「世の光」なのです。(『サイنز・オブ・ザ・タイムズ』1886年7月14日)

(エレン・G・ホワイト『キリストを反映する』英文p.169)

28 反対できない議論

「光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」(ヨハネ 12:36)

規律正しいクリスチャンの家庭には、反論の声をあげることはできません。そのような家庭に育った子どもたちは、不信仰を正当化させようとする詭弁にも対抗することができます。聖書を信仰の基盤としてるので、疑いの大波がきても、揺らぐことはありません。

キリストは、「あなたがたは世の光である」(マタイ 5:14)と言われました。キリストは、私たちに賜物を託されました。私たちは、この賜物をどのように使っているでしょうか？ 神様の栄光のために、また周りの方々のために用いて、光を輝かしているでしょうか？ それとも、自分の利益だけを求めているのでしょうか？ 多くの方は、賜物を、自分本位に使っています。良いことをするようにと神様からいただいた賜物をどのように用いたか、神様が裁かれることに気づいていません。その裁きの日に、託された技術や、教育、知恵、忍耐力、熱意を、神様のために用いなかったことについて、言い訳をすることはできません。

灯りを灯し続けるために、神様の助けが必要です。その助けは、イエス様が十字架で亡くなって下さったことによって、私たちに与えられました。イエス様は、その助けを受けるようにと、私たちに招いてくださっています。「わたしを砦と頼む者は わたしと和解するがよい。和解をわたしとするがよい」(イザヤ 27:5)。無限の力をもったキリストの腕にすがりましょう。そうすれば、どれほどキリストが素晴らしい方か、理解することができ、必要な助けはすべて与えられるのです。「神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩むなら」(一ヨハネ 1:7)、聖なる天使は共にいて、私たちに助けてくれます。主の御使いは、ヨシュアに告げました。「万軍の主はこう言われる。もしあなたがわたしの道を歩み わたしの務めを守るなら……わたしはあなたがここで仕える者らの間に歩むことを許す」(ゼカリヤ 3:7)。「ここで仕える者」とは、神様から遣わされる天使のことです。ヨシュアは、日々、神様に全面的に信頼していました。天使は彼と共に歩み、ヨシュアは何事も、神様の力をいただいて成し遂げることができました。

このような助けがあれば、灯りが消えかかること、心が沈むこと、疲れ果てることは、なくなるでしょう。天国の門が開くとき、あなたは子どもたちと一緒に御座の前に立ち、こう語ることでしょう。「わたしと、主がわたしにゆだねられた子らは、シオンの山に住まわれる万軍の主が与えられたイスラエルのしるしと奇跡である」(イザヤ 8:18)。神様の美しい都で、あなたの子どもたちが永遠の命を受けるのを目の当たりにすることは、この世で忠実に歩むことに対するなんと素晴らしい報いでしょうか。(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』英文 1886年1月14日)

(エレン・G・ホワイト『父なる神の愛』英文p.296)

29 心を一つに

「彼は父の心を子に 子の心を父に向けさせる」(マラキ 3:24)

罪がこの世界に入ってくる前に、アダムとエバ、そしてその子孫たちが幸せに暮らせるようにと、神様は愛の原則を定めておられました。悪魔サタンは、情熱や、フリーセックス、肉の欲望を、愛のように見せかけていました。そこで、神様は、真実の愛と、人間の考える愛の違いを示されました。神様の愛は、感情や、肉体的な興奮や、気まぐれとは違い、永遠に変わることのない原則に基づいたものです。真実の愛の第一の原則は、どのような状況にあっても、心に平安をもたらし、問題を正しく解決するよう導くことです。

人々の心が悪へと向かう傾向にあるこの世界では、真実の愛の原則を忘れないために、回心や、信仰によって義とされたあなたの個人的な経験を思い出すことが必要です。神様はエデンの園で、愛の第二の原則をお与えになりました。アダムとエバはそのような愛によって、罪がこの世界に入ってきた後でも、お互いを愛し合うことができたのです。創世記 3 章 15、21 節には、2 人のために小羊が犠牲となることが、書かれています。真実の愛は神の小羊を信じることによるのみ実現することをこの世界に教えるために、血が流されました。真実の愛は、キリストと日々、共に歩むことによって得られるものなのです。

息子が父親と激しい口論をしました。母親は 2 人の様子を見つめながら、黙っていました。息子が家から出て行ったとき、母親は父親に尋ねました。「アーネスト、あなたは間違っているわ。どうしてそんなにあの子に要求するの？」

父親は答えました。「あんな気難しい若造に、私が折れなくてはいけなかい？ あいつはいつも自分が正しいと思っている」

妻が言いました。「それは、違うわ。あなたはクリスチャンでしょう？ アーネスト、きいてちょうだい。私たちは神様の赦しによって生きていけると、子どもたちに教えなければならぬわ。あなたの権威ではなく、救い主の恵みと真実によって、家族は一致できるのよ」。父親は、答えることができなくなりました。

息子が帰ってきたとき、父親は言いました。「お前が正しかったよ。もっと早くそのことに気づかなくて、すまなかった。私を許してほしい」

「父さん」。息子は、声を詰まらせて言いました。息子は感謝の涙に気づかれぬように、部屋を出ていきました。(『力と光』1960 年 6 月 12 日)

(モーゼス・S・ニグリ『神様と共に歩む日々』英文p.339)

30 幸せな家庭の原則

「イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた」(ヨハネによる福音書 2:2)

イエス様と弟子たちを婚礼に招くことは、新郎新婦にとって素晴らしい特権です。カナの結婚式の新郎と新婦は、イエス様がおられることの意味を理解していたでしょうか？ 多くの結婚式のように、この結婚式でも問題が発生しました。それは、複雑な問題ではありませんでした。ただ、ぶどうジュースがなくなってしまったのです。ブラジルでは、パーティーが終わる前に、パンチと呼ばれる飲み物がなくなってしまふようなものです。

私が司式することになっていた結婚式を、延期しそうになったことがありました。新郎も新婦も、私たちが心配になるような誤解をしていました。けれども、2人は今幸せに暮らしています。それは、2人がイエス様を結婚式に招いたからです。2人はイエス様に家族の一員になっていただきました。そして主は、2人のすべての必要を満たされたのです。

イエス様の臨在こそ、幸せな結婚のもっとも大切な条件です。キリストがおられなければ、幸福になることはできません。キリストが家庭を導かれ、天国の家に住む準備に必要な指示を全て与えてくださるのです。

他にも、夫婦の関係をよくする簡単で実践的な方法があります。わたしはそれを、「特別な時間」と呼んでいます。最初の時間は、神様との時間です。個人的に礼拝するために、時間をとっていますか？ 断食して、祈っていますか？ 聖書を読んでいますか？ 誰でも、たった一人で神様と向き合う静かな時間が必要です。

第二の時間は、計画のための時間です。私たちは、忙しい世の中に暮しています。父親も母親も働かなければなりません。ほとんどの場合、妻は専業主婦ではありません。夫と共に、生活の糧を得なければなりません。2人とも、仕事で困難なことがおこります。家に帰るころには、くたくたに疲れています。子どもたちも学校から帰ってきて、宿題もあります。誰が、家事をするのでしょうか？ 母親が一人でするのでしょうか？ 父親は、当然夕食が出て来るものと期待していますが、手伝おうとはしません。家族はどうやって協力するか計画をたてないと、争いがおこり、ストレスがたまります。

第三の時間は、家族の時間です。家庭礼拝はとても大切ですが、話をしたり、交わる時間も必要です。全員が、家族の小さな成功や失望の物語をきくのです。そのような交わりは、家族の絆を深める、欠くことのできないものです。結婚生活は、旅にたとえられます。私たちはみな、天国という目的地に向かって旅をしているのです。キリストにあって日々、成長し続けるなら、天国に至ることができるでしょう。家族はお互いの間に起こる争いにどのように対処したらよいか、学ぶことが必要です。「ごめんなさい。許してください。私が間違っていました」と言えるようになりましょう。

ホワイト夫人は、結婚を考えている人たちに次のような助言を与えています。「結婚を考える前に一日二回祈る習慣のあった人は、結婚への歩みが予期される時には一日四回祈らねばなりません。結婚は、この世においても来世においても、あなた方の一生に影響を及ぼすものです。」(『青年への使命』第15部) (レオ・ランツオリン『朝露のようなイエス様』英文p.179)